

(2012年01月18日実施)

第4回渡航医学実用セミナーを受講させて戴きました

2012年01月18日、東京医科大学大学病院渡航者医療センター主催の掲題セミナーを、受講させて戴く機会を得ました。写真撮影等ができませんでしたので、文章だけの報告になってしまいますが、以下簡単にご報告致します。

【渡航者医療センターのセミナーについて】

このセミナーは、2011年01月19日から開始されているセミナーで、これまでに、既に4回開催されました。

第一回:(2011年01月19日実施)

『海外勤務者に関する渡航医学』と題して

「在留邦人における疾病の傾向と遭遇する問題点」について、
「海外派遣企業として知っておきたい渡航医学・産業医学の知識」、

第二回:(2011年06月01日実施)

『基礎疾患を持つ海外渡航者へのアドバイス』と題して、

「慢性疾患を持つ海外渡航者の健康管理」、
「慢性疾患を持つ海外渡航者の医療費」、
「循環器疾患を持つ海外渡航者へのアドバイス(旅行者血栓症を含めて)」:と続き、

第三回目(2011年09月21日実施)の前回からは、世界の国別医療情報と疾患対策への取組という組合せになり、

『ベトナム渡航者へのアドバイス』、
『糖尿病と海外渡航』について、

現地医療情報の紹介と糖尿病の方の海外渡航がピックアップされていました。

【今回のテーマ】

今回は、第四回目になりますが、

『ロシア渡航者へのアドバイス』を同センター 廣幡智子先生 & 福島慎二先生が、夫々

『医務官勤務経験より得られたロシア渡航者・進出企業へのアドバイス』、
『予防接種 ～ダニ媒介性脳炎ワクチン～』と題して講演され、

『グローバル企業における海外勤務者の健康管理』については、

同センター古賀才博先生がイントロ・プレゼンをされ、「もっとグローバルな視点で健康管理をみよう」というお話をされ、続いて欧州系企業代表としてノバルティスファーマ株式会社の川名一夫先生、米国系企業代表としてエクソンモービル有限会社の鈴木英孝先生による夫々の会社における海外勤務者の健康管理の実態報告に続き、古賀座長のもとに三名で会場からの質問に対するQ&Aも交えた形で活発なディスカッションが行いました。

【参加者】

会場の都合で40名程しか入れない教室しかとれず、当日は満員でした。主催者からの挨拶の中で、「応募者が多くなりすぎてお断りをせざるを得ない企業もあった」とのことでしたが、「実用」というタイトルの通り、実際に社員を赴任させている、あるいはこれから出てゆこうと企画されている企業にとっては、非常に興味の高い国の一つ(BRICs + Vのうち、既にベトナムを9月に、ロシアを今回実施されている)でしたので、企業からの関心度合も増したことでしょう。今後は、きっと残りのブラジル、インド、中国等についてのセミナーも実施されるのではないかと、そうならば、部屋の確保が大変になる、或いは早目の申込が必要になるのでは、と期待しています。

【トラブル発生につき】

今回、セミナー開始後にトラブルが二つ発生しました。

一つは、マイクの音量が途中で急激にダウンし出したこと、これと関連があるのか、セミナーが始まると同時に隣室から「ギィ〜ギィ〜ガァ〜ガァ〜ダダダダッ」という音が響いてきだして、講師がこれに負けぬように大声で語りかけないといけなくなってしまったのです。

理由は、翌日から東京で雨が降るとの天気予報を受け、急きょ雨漏れ対策の工事が突貫で行われていたとのことでした。ということで、廣幡先生のお話の後に、福島先生が、騒音の理由とともに「TBE(ダニ媒介性脳炎)ワクチンの話を終えたところで、部屋替えをします」とアナウンスし、その後別室に移ったのですが、ここは階段教室で、200名

以上が入るという場所。「いつか10回目ぐらいにはこの場所でセミナー開催できれば」との希望を持っていらっやった福島先生は、思わぬトラブルのおかげで、4回目にして達成してしまったと感慨深げに語っていらっやったのがとても印象的でした。

【廣幡先生講演内容】

ロシア渡航に奨励されるワクチン：（法的なものはないが）「A肝・B肝・破傷風・狂犬病（犬が群れて街を徘徊）・ダニ媒介性脳炎（モスクワの様な市街でもリスクあり）」+ポリオ（2010年タジキスタンからの流入労働者が持ち込み集団感染した）

身近な病気： 風邪（8月下旬から対策が必要になる）、上気道炎、下痢（水の悪さ、劣悪なスーパーの管理状態）、暖房による乾燥から来る乾皮症⇒湿疹（放置すると悪化）、虫刺、捻挫（路上凍結による）。

注意すべき疾患： 高血圧や高脂血症（ロシア料理が原因）、急性アルコール中毒とアルコール依存症（冬場のウオッカの飲み過ぎ注意）、外傷（ツララが落下！）、サルモネラや寄生虫（卵や生ものに多い）、アレルギー性鼻炎（日本と異なる飛来花粉）うつ病（窓のないオフィス）、膀胱炎（トイレを我慢しすぎる女性は要注意）、ライム病（ダニに刺されない様に注意を）、HIV（年々増加）、毒茸中毒（市場では毒茸も販売！）

デンタルケア： ロシア製はヘッドが大きすぎ、フロスは無い（あっても800円もする！）、歯磨き粉（バラエティに富む味だが口に合わぬものもあり注意を）

緊急時の受診病院を調べておくこと： 「公立病院」はロシア人だと年齢に関係なく無料で、「ポリクリニカ」は外来専用、「バリニツア」は入院専用と分かれていることに注意。これに対して私立系は欧米系の医療機関があり、公立より医療レベルも高い。

平均寿命： ロシアは世界121位でインドネシアと同等。男性は62歳となっている。首都モスクワと地方では格差が大きく、ユジノサハリンスクでは高齢者を町ではあまり見かけなかった。

各都市の病院概況： モスクワ、ユジノサハリンスク、ウラジオストク、ハバロフスク等について個別に概説された（詳細は割愛しますが、ロシアでは金持ちはロシアの病院では風邪等の軽い症状以外は受診しない、皆国外で手術等を終えてから帰国しているというお話が印象的でした。）。

ワクチン接種： ロシアでは『ワクチンは自分で購入して、病院に持参して接種して貰う』方式である。

薬局事情： 「アプチエカ」と呼ばれる薬局は、処方箋なしで購入可。薬品の容量も大き目。同じ薬品でも売値は店によりばらつきあり。医療品も安い、粗雑なものが多い。

等等、お国が違えば事情は夫々という感じを強く受けました。

【福島先生講演内容】

TBE(ダニ媒介性脳炎)について： 病原体及び臨床像についての説明で潜伏期間は4~28日だが、2/3は無症状であることとともに、「ダニに刺されて発症する場合よりもダニに刺された牛や山羊、羊等の生乳製品を食した場合の方が潜伏期間が短い傾向」という説明がされていて、これが強く印象に残りました。

流行地： 基本的にはロシアやスウェーデン、極東アジア等の森林地帯や農村部等に多いということですが、最近では中国でも増えてきていることに注意が必要。日本では2001年にオーストリア(ザルツブルグ)に親族を訪ねて訪問していた方が発症して死亡しています。

【ディスカッション】

欧州と米国系企業： エクソンは米国系企業だが、主要国(例:クウェート)には地域担当の産業医を置き、送り出し国側で赴任可否の判断がつかない場合には、世界共通の判断シートを産業医間で共有しているので、現地でOKとなれば、赴任させているという報告がなされていました。外資系企業にとっては日本法人が出先であり、日本から海外赴任している人は存外少なく、出張者の方の管理をしっかりしているように聞こえました。日本企業とは少し異なりますが、「日本式の健康診断、日本式受診メニューが全世界で受けられることは少ない。だから Think Global!」という古賀先生のご提案につながる内容でした。その後の討論も産業医を中心に活発に展開されました。

毎回、色々な国の事情について知ることのできるセミナーですので、次回(5月頃開催の予定だそうです)開催の日を、今から楽しみにしています。